

中心市街地に機能を集約したコンパクトシティづくり

地域に住む人々が快適な生活を送るためには、地域の中ににぎやかな場所が必要です。そこにお店や事業所などを集めれば、まとまったサービスが提供でき、病院などの施設が身近にあることで高齢者などにも暮らしやすい環境を提供できます。

また、人が集まることで様々な交流が生まれ、新たな事業などが期待できるようになります。そのため様々な機能を中心市街地に集約し、公共交通などの見直しを行いながら、都市機能を向上させて、高齢者にも環境にも優しいまち「コンパクトシティ」づくりを目指しています。

10年後のまちの活性化をイメージして議論を重ねる

平成21年度は、商工会を中心にまちづくりを検討するための組織「まちづくり協議会」を7月17日に立ち上げ、その中にプロジェクトチームを設置。幅広く意見を収集するために女性や今後を担っていく地元若者も加わり、「まちなかに何が求められているか」を中心に議論を重ね、10年後のまちをイメージしながら、今後のまちづくりの方針を検討してきました。

その中では、「若者・子育て世代

から高齢者までの居場所となる場所が必要」「日々の暮らしに必要な店や施設が必要」「緑や花など潤いのあるまちにしてほしい」などの意見が出されていますが、その多くは、「多久のまちなかには、生活に必要な機能が必要」という意見です。また、地元では自分たちの街並みづくりにも取り組もうと意欲的です。

そのようなまちにしていくためには、それをリードする機能をもつ施設や、その施設を整備・運営する組織の立ち上げ、まちづくりを情報発信していく仕組みづくりが必要で、その基本的な枠組みについても検討してきました。

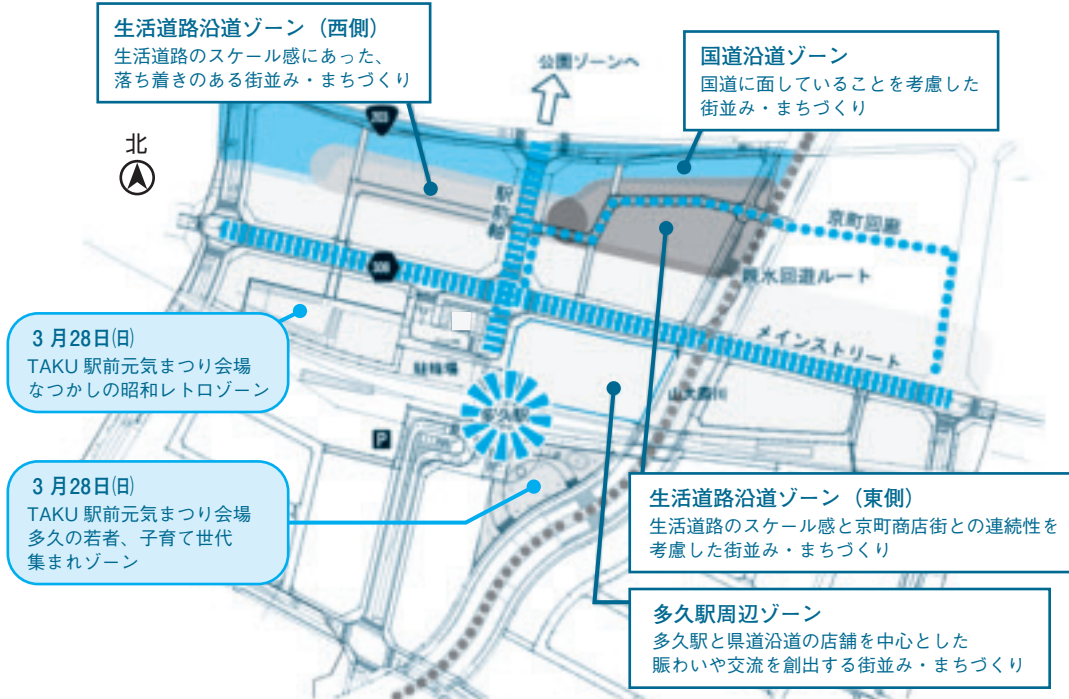
地域の体制づくりが課題

土地区画整理事業は、平成26年度の事業完了まで5年程が必要になります。工事と並行してにぎわいのある街並みづくりや、にぎわいづくりをリードする施設、イベントなどによる情報発信、それらを担う地域の体制づくりを行っていかねればなりません。

それらを含めてこれから10年をかけてまちをつくり変えていく必要があります。平成21年度はその最初の年として取り組んできました。

これからは地域が自らまちづくりを行える、新しい地域のコミュニティづくりが必要となってきました。

多久駅周辺まちづくりイメージ



にぎわいを取り戻そう！ 若い力の新しい動き

「まちづくりのために何かやりたい」「自分たちで多久を盛り上げたい」「にぎわいを取り戻そう」と、商工会と多久市の若者の有志が「夏の山笠に続け！」とイベントを企画し

ています。
それが、3月28日(日曜日)に多久駅周辺で初開催となる『TAKU 駅前元気まつり』です。
このような動きを支えながら、まちづくりの輪を広げ、情報発信につなげていきます。

市では、まちづくりの企画構想の段階から地域の方々に加わっていただき、10年プロジェクト構想を地域で支える体制を整え、まちなかに求められている居場所づくりやにぎわいづくりなどに結びつく具体的な事業の検討を行いながら、中心市街地づくりを進めていきます。

■問い合わせ 商工観光課 街づくり係 ☎75-2117